

小学校は

エンピツの

匂い

東京学芸大学 附属

小金井小学校

同窓会

撫子の会

会報

9

号

● もくじ

1 Ⅱ訪ねてみよう

2 Ⅱ母校からのメッセージ

3 Ⅱ第六回総会報告

4 Ⅱ集まりました

特集Ⅱ訪ねてみよう

● 豊島校の池袋辺り

● 追分校の本郷辺り

● そして小金井辺り

三校の同窓会が合流した撫子の会。そこにはかつて学び舎があった二つの地と今ありつづけている地が重なっています。それぞれのような地なのだろう。三校たがいを知るため、編集部が歩いてみました。そのご紹介。あなたも訪ねてみませんか。

● 1 豊島校の池袋辺り

写真1 豊島校があった場所の今は東京芸術劇場。観劇などで訪れた機会に、ここに豊島校があったことを想ってみてください。

写真2 芸術劇場へと至る池袋西口公園の植え込



写真1



写真2



写真3



写真4

みのなかに、ここに豊島師範と附属小があったことを記した碑があります。この広場の前身は、第二次大戦で空襲された焼跡に戦後現れた、ヤミ市でした。

写真3 あったア、そのヤミ市風景の模型が、芸術劇場からほど近い「豊島区立郷土資料館の七階に。

写真4 その隣には「長崎アトリエ村」の模型が。1930年代に、豊島区長崎を中心にして美術家向け借家群のアトリエ村が形成されました。今いえばバラック建てですが、赤い屋根に白い壁は当時あこがれのモダン家屋でした。

*このほか池袋には、サンシャインシティの「国際水族館」や、サンシャインの手前にある、面白グッズがいっぱいの東急ハンズなどあります。

解説 今では繁華街の池袋は、大正から昭和にかけて開発が進んだ郊外住宅地の玄関でした。アトリエ村は、その開発の理想を伝えていきます。この郊外住宅地の開発は、明治から大正に至り山手線内側が満杯になり、外側に向かったもので、池袋から豊島区要町、椎名町、板橋区常盤台辺へと、また、山手線隣駅・目白には「目白文化村」が、中央線では早くに中野辺りへと開けて行きました。豊島師範は、豊島・池袋のこうした時代と都市文化を背景にしていました。

ヤミ市の模型「いやア懐かしい！」 豊島周辺はこんな感じ！

撫子の会副会長 佐々智樹 小金井(豊島は五年まで)

デパートが並ぶ東口に比べ豊島のある西口は昭和二十六年生まれの私の記憶にも戦後が色濃く残った地域。朝でも酒の匂いが残る一杯飲み屋街では

シミーズ姿のおばさんが七輪で目刺を焼き、酔っ払いが転がり、気味悪い「蛇屋」が記憶に焼き付いている。

● 2 追分校の本郷辺り

解説 本郷は東京大学(東京帝国大学)を核にして、すでに明治・大正の時代に文教の地としての骨格を成しました。

区に返還された校舎に昔日の面影は見られませんが、界限には昔が少しは残っています。

写真5 本郷通り側校門隣にある、江戸風おでん屋の「のんき」。二十九年卒の荒井さんのお店。なぜ江戸風? 関東の濃い口しょうゆと鯉節のみダシにしたおでん汁だから。昆布ダシは関西のもの。具にさえありません。昆布を注文すると即座にこいうわれます。「うちには昆布なんかありませんよ」。

写真6 東大正門前の横丁を入ると蕎麦屋の「朝日屋」が。この店主、岡田の靖ちゃんは二十二

年卒。東大の建築科・都市工学科へはしょっちゅう出前し名だたる先生方とも親しかったそうなの。撫子の会副会長の川田さんも出前してもらったのかな。

写真7 本郷郵便局の森川町には、明治・大正・昭和の文豪徳田秋聲の旧宅があります。同期会のお便りを寄稿下さいました徳田章子様のご祖父様です。

写真8 木造3階建ての「本郷館」。かつては学生下宿館。この辺りには下宿旅館が多くあったが、今は修学旅行旅館あるいはアパートに転換。

写真9 根津神社。ツツジ山が有名。土地ツツ生徒の多くはこの氏子。

秋祭りの神輿をかついだ翌日の教室は、肩が痛くてカバンを背負えない、字が書けないだのと、うるさかった。

写真11



写真10



写真9



写真8



写真7



写真6



写真5



写真12



写真10 竹久夢二を展示している「弥生美術館」。

写真11 樋口一葉が住まった菊坂。このほか本郷には漱石や鴎外など明治の文豪ゆかりの場所が多い。

写真12 東大の赤門と三四郎池。今はどうか知れないが、本郷っ子にとって東大構内は、かくれんぼ、草野球、写生などをした庭だった。

● 3 そして小金井辺り

解説 第二次大戦後、市街地開発はさらに武蔵野、多摩地域へと西に進み、小金井辺りは畑地も残る典型的な東京西郊風景を見せています。

写真13 さすが武蔵野のど真ん中。ケヤキ並木が清々と高い学芸大キャンパスのなかにある小金井校。豊島や追分の皆さん、同窓会総会などの機会

写真13



写真14



にいちど訪ねてみてください。

昔の東京がいっぱいある 小金井公園「江戸東京たてもの園」

写真14 郊外健康住宅地として開発された池袋西郊の常盤台に、昭和十二(1937)年築の「常盤台写真場」。パウハウススタイルの外観と2階写場の採光はすばらしい。当時理想にした勉強部屋もあります。まさに昭和モダンの花。

写真15 文京区西片町から移築された「小出邸」。大正十四(1925)年築。日本でモダニズム運動を主導した建築家堀口捨己の設計で、ヨーロッパモダンと日本の伝統的造形を折衷したデザインです。

写真16 上野・池之端にあった化粧品メーカー「村上精華堂」。昭和三(1928)年築で、イオニア

写真15



写真16



写真17

式柱を持つ、当時としてのモダンな造りをしてます。

写真17 追分校の中山道側校門から白山に至る途中にあった「仕立屋」。明治十二(1879)年築。大正期の仕事場を再現しています。「母についてここに行ったことを憶えている。」(金子会長談)

写真18 千住から移築した、昭和四(1922)年築の「子宝湯」。壁のペンキ絵は富士山！最近ほとんど姿を消した銭湯のなつかしい空間がここにあります。

豆雑学 銭湯の絵はなぜ富士山？ 霊峰から湧く水が湯舟につながっている、清い水の表現。銭湯絵の題材でご法度とされているのが「秋景色」と「猿」。客が「飽き」て来なくなるから、客が「去る」からとの縁起かつぎから。



写真19 神田、日本橋辺りに多く見た「看板建築」。あつ「万世橋の交番」もある！



写真18



写真19



写真20



写真21



写真22



写真23

写真20 この都電で、都バスで、通学した！
園にはこのほか、大正モダン住宅の「田園調布の家」、建築家の「前川國男邸」、昔の商店、武蔵野・多摩の古民家（写真21）、豪農屋敷などあり。高橋是清の豪邸で飲食もできます。ピジターセンターには東京変遷史ほか展示。ミュージアムショップもあります。

「生きた建築だから 面白い、楽しめる！」

撫子の会副会長 川田紀雄（昭和四十一年小金井卒）

昔、郷土館と湿気いっぱい、の堅穴式住居があった場所に来た建物博物館です。「剥製」ではない動態保存を心掛けていて楽しい展示が売り。商店には当時の商品が並び、居酒屋には当時のお品書

き、民家の囲炉裏には火が入っています。ぜひ、どうぞ。
（建築家）

写真22 小金井公園南側の五日市街道沿いに流れる「玉川上水」。上水を覆う深い樹木のもとに続く散策道は、まるで深山にいるかと思わせます。

江戸時代、承応三（1654）年に完成した玉川上水は、多摩川から取水する羽村から四ツ谷大木戸までの約五十キロを流れ、飲用水・農業用水を供給し武蔵野の新田開発を促進しました。

豆知識 工事を指揮したのは玉川兄弟。全水路が完成し羽村取水口の堰を切ると、水は一夜にして江戸に到達したと伝えられています。これはすごいことです。水は五十キロもある川床に吸い取られきることなく、途中で滞留することなく流れて到達したのです。

この優れた土木技術は水田の造営技術に根ざ

したものとわれています。水を溜める水田の田底を築く技術と、田の水平面を観察しわずかな高低差を見分ける目が、確かな川床と微妙な勾配の五十キロもの連続を造り得たということです。

四季折々の色彩風景 のどかな野川公園

写真23 大岡昇平の「武蔵野夫人」の舞台はたしかこの辺だと聞きます。野川をはさんでのでかたで広々とした風景が、四季折々の色彩を見せます。バードウォッチングやバーベキューもできます。一帯は広いので、自転車で訪れるとなおよしです。



写真22

母校近況

校長 長野秀章

本日は朝からの雨がみぞれとなり、節分をすぎ春らしくなったとたんの雪となりました。午後からは、もうすぐ卒業する六年生と教職員とのソフトバレーボール大会がありました。寒さを吹き飛ばすほどの熱気の中で開催され、体育館は大いに盛り上がりました。また、先日二月十三日には、二年ぶりの研究発表会が千人を超える参加者を得て開催され、成功裡に終了することができました。この度は、本校の教育理念の中で大切にしている「授業」にこだわり、「受容」という言葉を核にしながら、二年間の研究に取り組みました。これまで幾度となく授業研究会を積み重ね、「求めあい、つなげあう子」受容から広がる学びの姿」というテーマで、研究発表を行いました。全教科・領域にわたる二十九の公開授業では、講師として現職の教科調査官をはじめ、本学の教授等をお迎えしました。記念講演では、小説家、エッセイスト、映画監督等で活躍の椎名誠氏が「世界の子どもたちを見て考えたこと」という演題で、とても中身の濃いお話をしてくださいました。研究発表会に花を添えていただきました。

学芸大附属四小学校の中にあつて本校は、手前味噌ではありますが、子どもたちのための学校づくり、子どもあつての授業づくりが行われ、教職員が一丸となつて理想の子ども像を描くという姿勢がはつきりとしています。改めて、小金井小の伝統、理念というものを強く感じられた研究発表会でした。



さて、本年の十一月十三日（金）に、附属小金井小学校として五十周年、豊島師範附属小学校として百周年を迎えることになりました。ただ今、この大事業に向け、

校内で着々と準備を進めているところです。撫子の会の皆様方におかれましては、さまざまな場面で、ご協力、ご指導をいただくことになると思われまので、何卒よろしくお願いする次第です。本校は教員の平均年齢が三十歳代と、若い先生方が多く在籍しています。この若さ溢れる小金井小は、春には満開の桜に包まれます。どうぞ、足をお運びください。お待ちしております。

撫子の会の皆様へ

副校長 関田義博

平成十九年度より副校長を拝命致しました。東京都の小学校で教師生活をスタートし、附属小金井小学校には昭和六十二年からお世話になっていきます。専門は理科ですが、物理化学は苦手です。生物特に大の虫好きで、今でも夏になると職員室の横に捕虫網を立て掛け、蝶を見つけると外へ駆けだします。

現在、小金井小学校は、①教育実習②教育実践研究③自然の中の宿泊の三つを特色に挙げて、学校運営をしています。去る二月十三日には研究発表会を開催し、全国から千名を超える教育関係者をお迎えすることができました。学級担任二十四名、専科教諭五名は皆教育研究への意欲が高く、研究授業が毎日必ずどこかの教室で行われています。保護者の方々も教育熱心で、学校に協力的です。先日の研究発表会では、受付、案内等の仕事にすんで取り組んでくださり、参観者からは、「接待のしかたがあったかいですね」と好評を得ていました。同窓会とのつながりでは、川田紀雄さん（昭和四十一年小金井小卒）が、長年にわたって同窓会と学校とのパイプ役をしてくださっています。現在、川田さんとは、二〇〇九年度に行われる創立百周年行事についての打ち合わせを進めています。川田さんからは、「同窓会は周年行事を全面的にバックアップします。」という、温かく心強いお言葉をいただいています。具体的には、記念式典で昔を知る



がたいお話もいただいています。

「創立百周年」という節目は太く大きく、古きよき時代をご存じの卒業生、旧職員の方々からすると、百年という歳月はそれぞれの方々が歩まれてきた人生と重なる程、重く深い歴史と考えます。何はともあれ、来年度の周年行事を執り行うには、学校だけでなく、撫子の会をはじめとする同窓会の方々のご協力が必要不可欠です。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

平成十九年五月十九日開催

第六回総会報告

副会長 川田紀雄

前回に引き続き、小金井母校を会場に約六十名の方の参加を得て、開催されました。ホームページが開設され、若い理事の参加を得てさらに活性化を目指していくことになりました。



理事
追分昭和二十五年卒
小金井昭和三十九年卒

金子修也（会長）
佐々智樹（副会長）

小金井昭和四十一年卒 川田紀雄 (副会長)
 豊島昭和二十五年卒 金子誠一
 豊島昭和三十年卒 石塚 久
 豊島昭和三十三年卒 大中裕子
 追分昭和二十六年卒 宮坂庸也
 追分昭和三十三年卒 西山マサ子
 小金井昭和三十九年卒 藤田由美子
 小金井昭和四十二年卒 菅沼和江
 小金井昭和五十一年卒 野久尾悟
 小金井昭和五十八年卒 楠本維大
 監事
 小金井昭和四十一年卒 佐々木正隆
 小金井昭和四十一年卒 高木織江
 小金井昭和四十五年卒 丸森一寛

同期活動報告

湊 信明 (昭和五十一年小金井卒)

私が学芸大附属小金井小学校を卒業したのは昭和五十一年三月のことですから、早いもので卒業してから三三年の月日が経ったことになりました。

卒業時、私は六年四組で、藤原直之先生に担任をしていたのでおりました。

藤原学級のクラスメイトたちは、とても元気が良く、至楽荘での三〇〇メートル遠泳ではクラス全員が完泳を果たしたり、卒業の際の謝恩会でベイ・シテイローラーズの「サタデー・ナイト」を、英語のフレーズを暗唱して合唱したりなど、とてもがんばり屋で、良くまとまったクラスだったと思います。

四組のクラスメイトとの同窓会は、五年ほど前に、国分寺で藤原先生を囲んで開催さ



至楽荘で家族ぐるみのお付き合い

れました。みんな四組に対してとても良い思い出を持っているようで、クラスの大半が集まる盛会となりました。

小学校同期全体での同窓会は、これまで開催したことはなかったのではないかと思います。私たちの期は、クラスを超えてとても仲が良く、今でも同期の半数くらいの旧友たちと親しいお付き合いが続いています。

このように今でも多くの旧友たちと仲が良いのは、二つの大きな理由があります。

一つ目の理由は、私たちの期は、昭和六〇年ころから毎年、八月の第一週目の週末に、一回も欠かすことなく、泊まりがけで至楽荘に集まっていることです。毎年、大体三〇人から四〇人くらいが参加しています。

この毎年の集まりの特徴は、同期でなくても、その時々知り合った友達や、彼氏や彼女など誰を連れてきても良く、友達の輪がどんどん広がって行くことです。

例えば、私とU竹君の場合は、同期のM井さんが大学の時に、通っている大学の友だちのA子さんとN子さんを至楽荘に連れてきていて、私たちに紹介してくれたことで、私はA子さんと、U竹君はN子さんと交際が始まるなんてこともありました(何とその後、二組とも目出度く結婚し、今では家族ぐるみでお付き合いするようになっていきます！)。

至楽荘での集まりは、土曜日の昼からは決まってバーベキュー大会。バーベキューで使う鉄板は、S澤君の持ち物なのですが、これは二〇数年間ずっとこの至楽荘で使い続けてきたもので、私たちの青春時代をともに過ごしてきた大切な鉄板です。炭の火をおこすときは、そこは附属小の卒業生らしく、着火剤のような安易なものを使わず、新聞紙や薪を使って火をおこします。そして、毎年、N久尾君が、大学時代にバイトで培った腕を生かして、実に美味しい焼きそばを作ってくれるというのが恒例となっています。



最近の、みんな子供ができて、子供連れで参加する人たちが多くなりました。いつの間にか子供同士がとも仲良くなっている、毎年、至楽荘での再会を喜び合うといった微笑ましい光景も見られるようになってきています。私の息子は、私の遺伝なのか、至楽荘でガールフレンドを見つけて、東京に帰って来てからもメールをしあっているようです。

私たちが同期がとも仲がよい二つめの理由として、同期のみんながよく集まる共通の店があることが挙げられます。

このお店は、「ムク」といって、同期のS井さんのご主人が三〇年以上も経営しているオールドアメリカンな居酒屋で、吉祥寺丸井店の裏手にあります(武蔵野市吉祥寺南町一―一 電話〇四二二―四九―四八五四 是非行ってみて下さい！)。

私たちは、忘年会や、同期の友人にお祝い事があつたときとか、外国や地方に行っていた友達が東京に帰ってきたときなどは、必ず、ムクに集まって夜遅くまで飲み会を開いています。

ムクのマスターは、みんなからとても親しまれていて、悩みなどあれば本当に親身になって話を聞いてくれます。

一昨年は、ムクの三〇周年記念パーティを、同期の有志で開きました。毎年の至楽荘で友だちになった子供たちも積極的に協力してくれて、朝からムクにかけつけて、お店中に風船や紙のリングなどの飾り付けをしてくれました。

午後三時にスタートして、みんなで深夜まで大いに盛り上がり、このときは延べ七〇人以上の人たち

が集まる大盛会になりました。

このように私たちは感謝なことに、附属小の同期のみならず、今でも親しくお付き合いをさせていただいています。これからもこの自慢の仲間たちと子供たちも一緒になって、同期の絆を強めていきたいと思っております。

平松讓先生を囲んで

西山マサ子（昭和三十二年追分卒）

二〇〇八年五月二十七日から六月二日まで日本橋三越六階美術特選画廊にて平松讓先生の個展が開催されました。

百号の大作を中心に先生が自選されました風景や花など一九六七年作から新作を含む三十余点を一堂にて鑑賞することができました。

林間学校で行きました懐かしい蓼科高原の風景。日本芸術院受賞作品、迫力溢れる東京タワーの絵は東京都庁に寄贈されています。

会場では先生を囲んでクラスメートたちと追分時代の話に花が咲きました。ボール紙で作られた大きな画板と絵具箱を持って東大の三四郎池に写生にでかけたこと、先生に褒められて絵が好きになったことなど走馬灯のように五十数年前が思い出されました。



先生は昔と少しもお変わりない笑顔で「そうでしたね」「そうでしたね」と繰り返して嬉しそうにうなずかれました。先生は今年九十五歳になられます。

追分小学校二十九卒同期会

徳田章子（昭和二十九年追分卒）

平成十九年十一月十日（土）虎ノ門パストラルにて、昭和二十九年卒・追分小学校の一組・二組の合同同窓会が開催されました。花村先生を囲み出席者、一組十四名・二組十六名の三十名の方々が集まり、久しぶりの学友との再会に、一言、話をかわせば昔にもどってしまふ心地の良さは、やはり追分小学校で六年間一緒に学び遊んだ仲間だからでしょう。か。時が何十年と流れているのに……。花村先生も昔とお変わりなく、お若く、お元気でいらして、スピーチの時も、ゆつたりと、時々ユーモアをまじえてのお話に、

小学生の頃を思い出して、私達の心をなごませて下さいました。二時間という時間もアツというまに過ぎてしまい、そして二次会へと楽しい時を過ごすことが出来ました。

この次のクラス会には、村上先生（先生は現在病氣療養中でご出席されませんでした）花村先生、両先生をお迎えして出来たらと思っております。



恩師への想い

村井徳久（昭和三十二年豊島卒）

今年私たちの恩師菅野信正先生が卒寿を迎えられます。六月にお祝いを兼ねたクラス会を開く予定です。平成十七年五月十四日、二十数年ぶりに私たちの還暦を記念してクラス会を開いたとき、それが人生の歳を重ね少し自分を恥ずかしがりながら皆が懐かしい学友の顔を見ました。押入れの奥に忘れられていた道具箱を開けたようにあの頃に戻って自然と言葉が交わせたのは四十八年の歳月の贈り物でしょう。先生が変わらずわたしたちひとりひとりに話しかけてくださったときは、この温もりにもいつも守られていたのだなと胸にこみ上げるものを感じました。昔の遠足や臨海学校、セピア色の写真をスクリーンで見ていると、思い出の場所はそこらの風や匂いを連れてきてくれたようでした。

会の終わりに先生が一言ひとことを囁みしめるようにお礼をおつしやり、皆胸が熱くなって拍手を贈りました。「今まで生きてきた中でこれほどまでに教師冥利につきることはなかったよ」その言葉の重みにわたしたちは涙をこらえることが出来ませんでした。先生がこれからもご健康で過ごされることを心から祈っています。わたしたちはいつまでもたっても菅野先生の生徒です。



クラス会報告

小松純一（昭和四十二年小金井卒）

平成十九年三月十八日、昭和四十二年三月卒業一組のクラス会を、菊田先生をお招きして開きました。小学校卒業四十周年、大学を卒業して社会に出たから三十年を迎える節目の年に、男子八名、女子十二名が集いました。

国分寺での懇親会に先立ち、希望者は菊田先生に引率されて小学校を見学、かつての六年一組の教室が、二組とあわせて広い音楽室となっていることを知り、感慨もひとしおでした。低学年用校舎や食堂、コンピュータ室など、新しい施設に目を瞠るとともに、当時と変わらない階段の木製手摺や屋上に、四十年前の記憶が鮮やかに蘇りました。廊下はもつと明るかったはずなのに：：と思っていたら、窗外の木々が大きく太くなったのです。校長室で卒業文集を見、一字荘と小学校前に生えていた木から作ったキーホルダーを記念に頂戴し、一同歓声。

懇親会での近況報告は名簿と逆の順番で。われわれの年代は、社会人になる頃は就職難、その二、三年後に第二次石油危機、八十年代は円高不況とそれに引き続くバブル経済に翻弄され、その後は「失われた十年」と「構造改革」という名のリストラ：皆それぞれに苦労を重ねて今日に至りました。でも、菊田先生の柔らかい、ゆつたりした語り口と学友の元氣な姿に接し、これからの人生を皆とともに心豊かに過ごしていこうと勇気づけられた人も多かったのではないのでしょうか。

アニメキャラクターデザイナーからの菊田先生似顔絵額の贈呈と、吹奏楽指導のベテランによる指揮のもとでの校歌斉唱で懇親会を締めくくり、後は二次会、三次会と、時がたつのを忘れて大騒ぎ。この次のクラス会にも、きつと元氣な顔を見せることをお互いに約束していました。

豊島師範附属小学校 十七年組の記念文集

昭和の撫子

— 戦中戦後七十年 —
山内幸子（昭和十七年豊島卒）



私たち昭和ひとけた生まれが豊島師範附属小学校を卒業したのは、太平洋戦争が始まった翌年、昭和十七年春のことでした。皆それぞれの方向に進学しましたが、戦争は激化。クラスの連絡も途絶えた中で終戦を迎えた時は、中学と女学校の四年生になっていました。戦中を遅く生き抜いた仲間を懐かしみ、連絡を取り合い、やがて撫子クラス会を開くようになりました。

間もなく喜寿を迎える頃、百五十余人いた仲間は九十一人になっていました。戦中戦後の思い出を中心に、自分の歩いた道を含めて、記念文集「昭和の撫子」を半年かけて六十人が書きました。予定の二倍の原稿や写真が集まり、平成十八年三月に私たちの大切な記録集が出来上がりました。

（BS判二〇八頁。残部少数あり。ご希望の方は
電話・FAX 〇三三三八二二二三五八 山内まで。
頒価二千円）

編集後記

編集担当 西山マサ子

●この号は金子会長の提案で訪ねてみよう、豊島校の池袋辺り、追分校の辺り、そして小金井辺り特集しました。

池袋周辺の様変わりは大変なもので日本の高度成長の先端をいった場所のような気がしました。

本郷周辺では先輩の家を訪ね快く応対して頂き話し込んでしまいました。まだまだ昔日の面影が残っているところが多いです。

●小金井周辺は、会長・副会長はじめ編集部の方々と二月二十五日、一日をかけて散策しながら取材しました。小金井公園「江戸東京たてもの園」には池袋西郊の常盤台の写真館、本郷・追分・根津にあった、邸宅・仕立屋・居酒屋などが現存し感動しました。是非皆様も各地を訪ねてみて下さい。

●今年度から同窓会担当学年が決まりました。今年度は昭和五十一年卒の方々に、主に総会の懇親会の企画・運営をお願いしました。また、次年度の五十二年卒の方々も同窓会にお誘いあわせて大勢出席願います。同期会、クラス会のお便りをお寄せ頂きありがとうございます。今後も写真などを添えてお寄せ下さい。

「撫子の会」会報・第九号

発行 平成二十一年四月

この号の編集担当

金子修也（昭和二十五年追分卒）

西山マサ子（昭和三十二年追分卒）

高木織江（昭和四十一年小金井卒）

印刷 山信印刷（山佐福栄・昭和二十八年追分卒）

投稿・寄稿 問い合わせ先

西山マサ子 電話（03-3815-9619）

高木織江 電話（045-961-2318）

同窓会事務局 東京学芸大学附属小金井小学校内

住所 〒184-8501 小金井市貫井北町四丁目一番一号

電話 042-329-7823 Fax 042-329-7826

撫子の会郵便振替口座

番号 00100-8-709121 加入者名・撫子の会